

小中高と連携した家族領域の学び

— 高校1年生の家族に関する意識調査から —

東京都立清瀬特別支援学校	池 尻 加奈子
東京学芸大学附属国際中等教育学校	石 津 みどり
弘前大学	小 野 恭 子
東京学芸大学附属小金井中学校	佐 藤 麻 子
小平市立小平第十一小学校	藤 田 和 美
東京学芸大学附属高校	阿 部 睦 子

目 次

1. はじめに	110
2. 目的	110
3. 方法	110
4. 分析	111
5. 結果	111
6. 考察と今後の課題	114
7. 引用・参考文献	115
資料	116

小中高と連携した家族領域の学び

— 高校1年生の家族に関する意識調査から —

東京都立清瀬特別支援学校	池 尻 加奈子
東京学芸大学附属国際中等教育学校	石 津 みどり
弘前大学	小 野 恭 子
東京学芸大学附属小金井中学校	佐 藤 麻 子
小平市立小平第十一小学校	藤 田 和 美
東京学芸大学附属高校	阿 部 睦 子

1. はじめに

家族関係をめぐって日本では大きな変化が起こっている。これまで家族の授業を行うと、「サザエさん」が日本の家族の象徴として挙げられ、夫婦に子どもが二人いるのがごく普通であるというイメージをもつ生徒が多かったが、現代は、家族の形態や機能が多様化している。平成27年4月の厚生労働省の報告によると、25年間で母子家庭は1.5倍、父子家庭は1.3倍増加している。また、少子化や子どもの貧困の連鎖が大きな社会問題となっており、虐待事件が増加している一方、「イクメン」という言葉が出てきたように男性の育児参加が積極的になってきた面もある。

様々な家庭環境のもとにある児童生徒に対して、自分の家族や育ちについて話題にすることは、非常にデリケートなことであり、学校現場では、深く踏み込んでいくことに躊躇しているのが実際である。しかし、これから社会を支えていく役割を担う子どもたちに対して、家族について向き合わないわけにはいかない。家庭科からできる授業があるのではないかと考え、平成19年より OPGE や総合的道德プログラム推進プロジェクトの助成を受け、教材・授業開発に取り組んできた。

その成果として、家族の学習に児童・生徒が命の大切さや男女平等といった道徳的価値を自ら学びとれる視聴覚教材「あっくんおおきなあれ」（以後 DVD 教材と記す）を開発した。DVD 教材を用いて附属 A 小学校では「家族のありのままの感情を知り、家族と自分の成長を見つめなおす学習」、附属 B 中学校では「新しい命を迎える家族からジェンダー意識に気づく授業」を行ってきた。DVD 教材の開発にあたっては、小中高と異なった立場で繰り返し学ぶことによって、各発達段階における学びをスパイラル状に繋げることをめざした。今年度、附属 A 小学校、B 中学校で学んできた生徒が附属 C 高校に入学した。そこで、本研究では附属学校の特性をいかし、同じ DVD 教材を用いた授業を小学校・中学校と繰り返し受けてきた生徒の学びを追跡することにした。

2. 目的

高校1年生段階における自分の将来の家族に関する考え方を明らかにすること、また、小・中学校で同じ DVD 教材を用いた授業を受け、繰り返し学んできた生徒の学びを追跡することを通して、高校段階で行う授業を提案することを本研究の目的とした。

3. 方法

附属 C 高校1年生生徒120名を対象とし、アンケート調査を2種類行った。調査時期は、平成27年6月とした。

(1) 既習事項の確認として、小・中学校学習指導要領における家族と家庭生活領域の内容のタイトルを提示し、覚えているか否か5段階評価と自由記述欄を設けたアンケート調査（資料1）を実施して教材及び授業の印

象について評価をした。

(2) 性別や現在の家族の基礎情報と、将来の家族に関する意識調査（資料2）を行った。

また、視聴覚教材を用いた授業を小・中と受けてきた生徒11名（男子3名、女子7名、以下追跡者と記す）を対象に15分程度のインタビュー調査を実施し、考察の補足データとして用いた。

4. 分析

(1) について、5段階評価に関して全体（120人）、追跡者（11人）、その他（109人）の人数を明らかにした。また、自由記述の数、内容について分析した。

(2) について、①結婚 ②家事 ③子供 ④労働の4項目について検討を行った。大学生に対する「家族」に関する意識調査アンケート（大辻，2009）結果との比較及び追跡者（男＝4人、女＝7人）とその他（男＝43人、女＝66人）との比較を行った。

5. 結果

(1) 既習事項の確認アンケート調査

今回調査した生徒の基礎情報については、表1に示す。小学校で印象に残った学習内容について、結果から抜粋したものを図1に示す。このデータについては回答した実人数で表示し、生徒の半数にあたる位置にラインを入れた。①から⑤の項目において、覚えていないと回答した生徒の割合が62%から85%であった。附属C高校の特徴として、海外で小学校時代を過ごした生徒が20%いて、未記入という回答が多くみられた。追跡者との他との比較では、有意な差はなかったが、小中と繰り返し学んだ生徒には覚えていないという回答が多くみられた。

中学校で印象に残った学習内容について、小学校と比較すると、覚えてないと回答した生徒が最大で62%であった。半数以上の生徒が覚えていると回答した項目は、家族や幼児の発達に関するものであった。追跡者との他との比較においては、有意な差はなかったが、幼児の発達と成長の特徴について覚えていると回答する生徒が多かった（図2）。

自由記述について、全体約30%前後の生徒が記述をし、その総数は、小学校内容で50、中学校内容で103であった（表2）。記述の内容は主に①DVD教材に関して②家族保育に関して③衣食住に関する実習・実技④その他の4つのカテゴリーにわけられた。追跡者は、小学校内容について自由記述をする者が一人もいなかった。表3には、中学校のDVDに関する記述の具体を示す。中学校では、DVDに関する記述が、実習実技に関する回答と同じ程度の割合で出現した（図3）。

表1 基礎情報

小学校		中学校	
・海外	28名	・海外	9名
・国内	92名	・国内	111名
首都圏(東京、埼玉、 神奈川、千葉)	90名	首都圏(東京、千葉、 神奈川)	111名
東北	1名		
関西	1名		
附属小学校出身	59名	附属中学校出身	108名
公立小学校出身	26名	公立中学校出身	3名
私立小学校出身	7名		

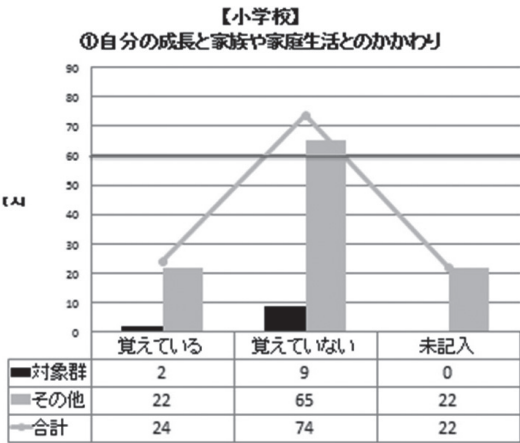


図1 小学校の結果（抜粋）

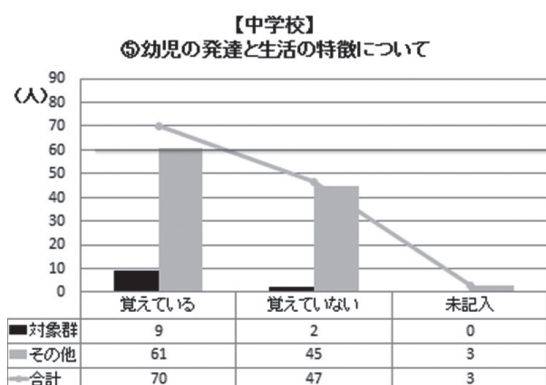


図2 中学生の結果（抜粋）

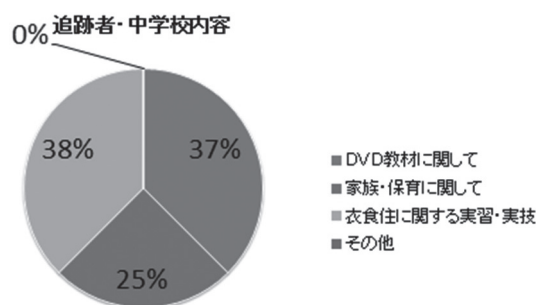


図3 追跡者の自由記述の内容

表2 自由記述の人数と件数

自由記述をした人数		自由記述の件数	
追跡対象者	その他	追跡対象者	その他
3人	38人	小学校内容 0	50
(27.3%)	(34.9%)	中学校内容 8	95

表3 DVD教材に関する記述の具体

中学校内容	DVD教材に関する自由記述	件数
	あっくん	26
	ビデオ	5
	実際の幼児の映像をみたこと	2
	赤ちゃんのビデオ	1
	テレビみた	1
	あっくんの成長+大変な生活	1
	赤ちゃんのビデオ(あっくん)	1
	合計	37

このアンケートは、家族と家庭生活領域に関する回答を求めているのだが、小学校では、調理や裁縫、掃除といった実習や実技に関する回答が多くあがってきた。追跡者には、小学校で親子ゲストを招いた授業を行っていたので、その印象が残っていると予想していたのだが、出てこなかった。小学校で学習した内容の印象は薄くなっていることが明らかとなった。一方、DVD教材に関しては、実習実技と同程度の印象があったので、一定の効果が確認できた。このアンケートだけでは、学習効果の検討を行うには不十分であった。

(2) 家族に関するアンケート調査

はじめに、大辻（2009）の行った調査は、対象が全国の大学生1135人（男＝526人、女＝600人、不明＝9人）、調査時期は平成21年12月～平成22年1月、調査機関はNPO法人ドットジェーピーであった。この結果と比較検討を行った。

結婚したいかについては、高校生全体では「はい」が68.5%、「いいえ」が7.5%、「わからない、答えたくない」が24.2%であり、大学生と比較すると「はい」が少なく、「わからない、答えたくない」の回答が多い傾向があった。小中と繰り返し学んだ生徒に着目すると、男子は75.0%、女子は100%で「はい」と回答しており、有意差はなかったが、結婚したいと考える傾向があった（図4）。

家事をしたいかについては、高校生全体では「はい」が53.3%、「いいえ」が25.0%、「無回答」が21.7%であり、大学生と比較すると「はい」が少ない傾向があった。小中と繰り返し学んだ生徒に着目すると、女子が85.7%で「はい」と回答しており、有意差はなかったが、女子生徒が家事に意欲がある傾向があった（図5）。

子どもがほしいと思うかについては、高校生全体では「思う、やや思う」が71.7%、「思わない、あまり思わない」が6.6%、「答えたくない、記入なし」が21.7%であり、大学生と比較すると「答えたくない、記入なし」の回答が有意に多くあった。小中と繰り返し学んだ生徒に着目すると、男子は75%、女子は100%で「思う、やや思う」と回答しており、子どもを儲けたいと思う傾向があった（図6）。

子どもが生まれた後も働きたいかという質問には、追跡者以外の女子は「はい」が48.5%、「いいえ」が15.2%であり、大学生女子と比較すると「はい」が少なく、「いいえ」が多い傾向がみられた。小中と繰り返し学んだ生徒に着目すると、男女ともに100%が「働きたい」と回答していた（図7）。

総じて、大学生と比較すると「はい」「思う」が少なく、「答えたくない、わからない、記入なし」が多かった。

問12. あなたは結婚したいと思いますか？（高校1年6月）

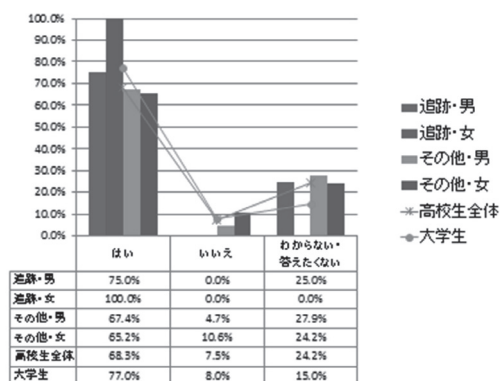


図4 結婚

問13. 将来、あなたは家事をしたいですか？（高校1年6月）

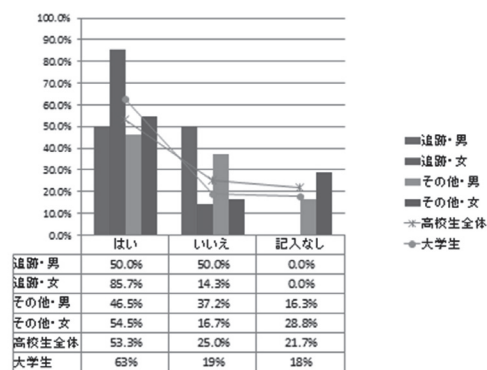


図5 家事

問14. あなたは将来子供が欲しいと思いますか？（高校1年6月）

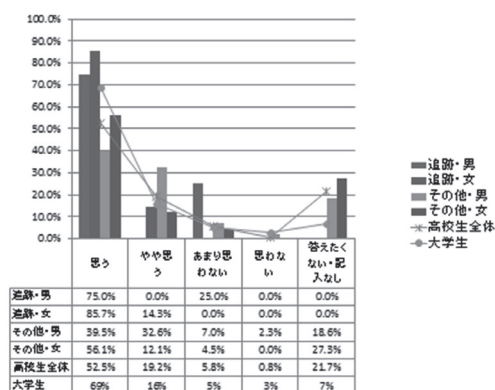


図6 子供

問16. 子供が生まれた後も働きたいと思いますか？（高校1年6月）

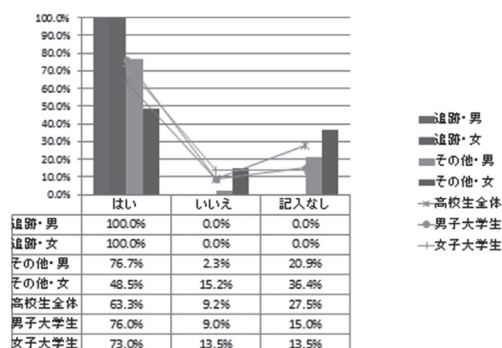


図7 労働

この背景を考えると、暮らしの違いがあると考えられた。今回の調査では、対象の大学生の4割が一人暮らしをしていた一方、高校生はほとんどが親と同居であった。よって、一人暮らし経験がなく、労働の経験もないので、高校生である現段階で、将来の結婚や家事、子どもについて具体的なイメージをもって考えることができなかったことが示唆される。

繰り返し学んだ生徒の結果は、「結婚」「子育て」「家事」「子育てと仕事の両立」に関して意欲的であった。特に、女子生徒はその傾向が強く出ていた。調査対象の数が少ないため、結論付けることができないが、研究対象生徒は、小学校で自分の家族について振り返り、中学校でジェンダー視点を持ち自分の将来の生活を考えることを学んできた。授業のめあてはそれぞれ異なるが、同じDVD教材に登場する家族を一例にした学習を繰り返すことによって家族・家庭を作っていくイメージが身近にとらえられ、自分の将来のことを具体的に考えられるようになることが予想された。また、ジェンダー視点の学習を行ったことにより、女子生徒が子育てと家事と仕事の両立に対して前向きにとらえていることも考えられた。この点については、家庭環境等の要因との検討が必要であり、今後の課題となった。

(3) インタビュー結果

既習事項アンケートで覚えていない、および自由記述がなかった生徒を対象とした。授業の印象を尋ねると、展示会の作品作りや味噌づくり等の実技をとまなうものの回答が多く、既習事項アンケートの結果と同様であったが、家族に関する授業について語る生徒がいた。小学校と中学校で見た登場人物、内容が違ったという回答や記憶が混同している回答が得られた。既習事項アンケートの結果からも教材の印象は残っているが、内容がそのまま伝わっているとは限らないことがわかった（図8）。

しかし、小学校と中学校の授業のめあては異なっていたのだが、それぞれのめあてを受け取り理解していることがわかった。小学校と中学校において、教材に対して新鮮な気持ちをもって学習できること、また、教材はめあてに合わせて使うことが可能で、さらに同じ教材を使用することで生徒は関連づけて受け止めることができ、別のめあての授業であっても同じ教材を使うことで、スパイラルな学びができていたことが再確認できた。

6. 考察と今後の課題

開発したDVD教材を用いて、小・中と繰り返し学ぶことで、具体的に将来のことをイメージできるようになると考えられた。よって高校段階でも本教材を用いて繰り返し学習することが必要である。調査結果より、消費者教育、生活設計の視点を入れていくことで、より現実的に自分の将来を考えることができるのではないだろうかと考えた。高校段階では、DVDを視聴することで現代の一家族の結婚、出産、育児を知るだけでなく、その他のライフイベントを知り、経済的な視点から生涯にわたる暮らしを具体的に学ぶ必要がある。多種多様なライフスタイルがあることを知り、自分らしく生きること、自分にとっての幸せな暮らしと家族のかたちとはどのようなものであるかを考える。またDVD教材の中のコンテンツでも、人的資源の活用場面をとりいれたシーンがあるので、ここから金銭面資源、社会的支援や仕組み等にもふれる。十人十色の価値観があることを認めつつ、社会にとって有益であることがどうであるか考慮しながら、「自分にとっての幸せな暮らし」がどのようなものであるか、そのためにはどのような社会の仕組みがあるのかといった将来の家族を作った時の実生活をイメージし、それを具現化するために必要な事柄について学習する、このような授業を提案したい。授業の展開を図9に示す。

ゲストティーチャーの授業の印象を語った生徒のインタビュー詳細

Q1. 家庭科の授業で印象的なことは何ですか？
料理、ミシン。普段の生活のこと。一番印象に残っているのは、展覧会のエプロン作り。

Q2. ゲストティーチャーのことで覚えていたことを教えてください。
オープンスペースという広い教室にみんなが集まった。広い教室の印象が強い。映像を見た。普段の赤ちゃんがいる生活のホームビデオを見た。何か聞きたいことありますか？と聞かれて、普段私はあまり発言をしないのだけれど、先生に聞いてみればと言われて質問したのを覚えている。

Q3. あなたが見たビデオはどんなものでしたか？
普通にお家で帰っているもの。寝返りをしたときの映像。遊んでいるところ。

Q4. 授業ではどんなことをしましたか？
赤ちゃんが生まれてこようとした。とが産産のときのお話を聞いて、へえ〜と思った。

Q5. 小学生のときはその授業をうけてどんなことを思ったのですか？
そうなんだ〜。と思った。私には、きょうだいがいなくて、親戚の子は年上の人が多いから、そうやって赤ちゃんが生まれて、一緒に成長を見るのはいいなあと思った。

Q6. 中学校でも保育のこと家族のことを勉強したのは覚えていますが？中学何年でやったか覚えていますか？
中1が中2でやった。家族がいる中でどういかに気をつけられたいか、普段のくらしとかについて勉強した。

Q7. 他にやったことは覚えていますか？
映像を見た。おもちゃを作った。

Q8. 映像はどのようなものでしたか？
ホームビデオみたいな。普通、日常の様子、生活を撮ったもの。

Q9. 小学校の時に見たビデオと同じでしたか？
違う物。ビデオに出てくる人も違った。

Q10. 中学生のときは、この学習をして、どんなことを思いましたか？
いいな、楽しそうだな。小学生のときは自分の家族のことを思い浮かべた。中学生のときは、親戚でこれから赤ちゃんが生まれる人がいたので、自分の身の回りでそうやって幸せがあるのはいいなあ。赤ちゃんが生まれるのは幸せだな。親戚の人が、たいへんだって、それ以上に嬉しいことがある。これからおなかの子に会えると思うのが楽しみ、というのを思い浮かべた。

Q11. 繰り返し勉強してきて、高校生になってみて、家族のことをどう思っていますか？
自分も家庭をもてみたい。と思った。こういう家庭をもてみたい、というイメージをもてた。

実際の授業
は、映像を教室で見ながらオープンスペースに移動して、親子ゲストと対話をした。

実際の授業
では、うつ伏せで顔を返す映像（生後3か月）まで。中学校で寝返りや遊んでいる様子の映像を提示した。

実際の中1
実際の、シーンは異なるが、同じ登場人物のDVD教材

図8 インタビューの詳細

・本時の展開（第3次 生活設計シミュレーション）	
主な学習活動・予められる生徒の反応	学習意欲 ※評価
<p>1. 家族のいる家庭の画像（＝教材）を自分の生活について見て、家族について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもはかわいいなあ。 ・親との関係は悪悪。 ・今、しゃべってない。 	<p>□父兄と母親の家族や子供の顔を注目する。</p> <p>※家族について考え、今までに学習した内容を思い出せることができた。</p>
自分は将来 だれと どんなくらしをするのだろう	
<p>2. 家族や高齢者が共に暮らすには、どのようなことが必要とされるだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護介助は大変だね。 ・子育てと仕事の両立が難しいから、おばあちゃんや祖父母に頼みたいけど。 <p>3. 自分の理想家族のスタイルを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族構成や生活スタイルを考えた。ワークシートに記入する。 ・家族は外見がいい。 ・結婚に夢中になりた。 ・結婚する気もないし子供もいらない。 ・田舎暮らしがいい。大家族構成。 <p>4. 家庭経営のことを考え、生活をシミュレーションする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中絶後に人生設計をし、四つ時のためにどのような支援や仕組みがあるか考える ・家族構成がどう変化するかわからない。収入と支出が合わない。 ・教育費と子育てにはお金がかかる。 ・失業や病気の際には、親などの家族の支援に頼る場合や公的支援に頼る場合もある。 ・生活に困ったときには、社会のセーフティネットがあるから、それを頼ればいい。 ・ネットも結構お金がかかる。 <p>5. 生活をシミュレーションしながら気づいたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失業を引いてお金を出さないと大変。 ・人生は多岐岐路があり、家族や地域の人と協力する必要があることがわかった。 ・ハブニングがあることも考え、考える必要があることがわかった。 ・家族の和歌は様々で、思い通りにいかないことがわかった。 ・生活するのには、考えとお金が必要でいいことあることがわかった。 ・理想の生活をするなら仕事から考えないと... ・みんなの意見を聞いてワークシートに記入する。 ・アンケートを実施する。（10分） 	<p>□住まい方、家族の構成、収入と支出など、家ごとに意見を話し合う。</p> <p>※メリット・デメリットを整理してワークシートに記入することができた。</p> <p>□自分の理想家族をイメージする。</p> <p>※自分の考えをもとに、周りの人と意見を話し合うなど相談して生活スタイルを考えることができた。</p> <p>□家族経営のお金の使い方を自分の理想ライフスタイルで決める。</p> <p>※家族構成は、収入と支出が合わないこともあるので、自分で決める。家族構成は様々なものを設定する。</p> <p>また、生活におけるハブニングを設定し、それに対応する方法を考える。</p> <p>※生活の収支を理解して、生活スタイルを考えることができた。</p> <p>□家族構成によって家族の負担がどうなるかハブニングの時の対応の方法がわかることになった。</p> <p>□生活をシミュレーションして、自分の人生や将来の希望と現実を比べて考える。家ごとに気づいたことを発表する。</p> <p>※自分にとって理想の生活と現実の生活とを比べてみる。ハブニングを受けて、何を大切にしたいかを考える。ワークシートに記入することができた。</p>

図9 高校の授業案 展開

今後は、この授業を行った後、再度家族に関するアンケート調査を行い、意識の変容について検討する。また、本研究では、小・中と繰り返し学んだ生徒のサンプル数が少なかったため、学びが深まる傾向がでていたが、学習効果の結論づけができなかった。そこで、他の附属高校の調査結果の分析を合わせて、再検討したい。

7. 引用・参考文献

1. 石津みどり・酒井やよい・佐藤麻子・阿部睦子・桑原智美・藤田和美・小野恭子・池尻加奈子（2011）ジェンダー視点を取り入れた家庭科の授業における教材開発：中学校における家族領域を中心として．東京学芸大学附属学校研究紀要38 pp.127-139
2. 大竹美登利・池尻加奈子・小野恭子・佐藤麻子・石津みどり（2013）中学校家庭科で道徳的価値「ジェンダー平等」をはぐくむ視聴覚教材の開発．東京学芸大学紀要．総合教育科学系64（2）pp193-202
3. 池尻加奈子・小野 恭子・佐藤 麻子・阿部 睦子・石津 みどり・藤田 和美・桑原 智美・酒井 やよい・三浦 佳・大竹 美登利（2013）家庭科で道徳的価値をはぐくむ視聴覚教材の開発：あっくん おおきくなあれ．日本家庭科教育学会大会・例会・セミナー研究発表要旨集56, pp71
4. 大辻康太（2009）「家族に関する意識調査アンケート」
www.dot-jp.or.jp/archives/2009/0130family.pdf （2016/1/25最終アクセス）
5. 飯田市教育委員会生涯学習・スポーツ課（2012）「高校生アンケートのまとめ」
www.city.iida.lg.jp/uploaded/attachment/14350.pdf （2016/1/25最終アクセス）
6. 厚生労働省（2015）「ひとり親家庭等の現状について」
www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou.../0000083324.pdf （2016/1/25最終アクセス）

高1 家庭科の学習内容に関するアンケート

クラス () 番号 ()

- 1 出身小学校の地域を教えてください。

↓まるをつけてください

国 () 都道府県 () 市区町村 ()

公立	私立	国立
----	----	----

- 2 小学校家庭科の内容について、覚えているかどうか次の 1から5 でお答えください。

1. よく覚えている 2. 少し覚えている 3. 覚えている 4. あまり覚えていない 5. 覚えていない

覚えている場合はどのようなことを学習したか、印象に残っていることをカッコの中に記述してください。

よく覚えている 少し覚えている 覚えている あまり覚えていない 覚えていない

- ① 自分の成長と家族
- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|

印象に残っていること ()

- ② 家庭の仕事と自分ができる仕事分担
- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|

印象に残っていること ()

- ③ 生活時間の有効な使い方
- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|

印象に残っていること ()

- ④ 家族とのふれあいと団樂の工夫
- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|

印象に残っていること ()

- ⑤ 近隣の人々とのかかわり
- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|

印象に残っていること ()

- 3 出身中学校の地域を教えてください。

↓まるをつけてください

国 () 都道府県 () 市区町村 ()

公立	私立	国立
----	----	----

- 4 中学校家庭科の内容について、覚えているかどうか次の 1から5 でお答えください。

1. よく覚えている 2. 少し覚えている 3. 覚えている 4. あまり覚えていない 5. 覚えていない

覚えている場合はどのようなことを学習したか、印象に残っていることをカッコの中に記述してください。

よく覚えている 少し覚えている 覚えている あまり覚えていない 覚えていない

- ① 自分の成長と家族や家庭生活とのかかわり
- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|

印象に残っていること ()

- ② 家庭や家族の基本的な機能
- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|

印象に残っていること ()

- ③ 家庭生活と地域のかかわり
- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|

印象に残っていること ()

- ④ 家族関係を良くするための方法を考える
- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|

印象に残っていること ()

- ⑤ 幼児の発達と生活の特徴について
- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|

印象に残っていること ()

- ⑥ 子どもの成長と家族の役割
- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|

印象に残っていること ()

- ⑦ 幼児の遊びの意義
- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|

印象に残っていること ()

- ⑧ 幼児とのかかわり方の工夫
- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|

印象に残っていること ()

- ⑨ 家族や幼児の生活についての工夫と計画
- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|

印象に残っていること ()

*** 以下のアンケートについては成績には含まれませんので、率直に答えてください。**

個人の考え方は自由で、尊重されるべきものです。答えたくない場合はそのように回答してください。

問 1. あなたの性別を教えてください。 ☐ 女 ☐ 男

問 2. あなたの家族構成について教えてください。

☐ 父 ☐ 母 ☐ 祖父 ☐ 祖母 ☐ 兄 ☐ 弟 ☐ 姉 ☐ 妹 ☐ その他

問 3. あなたには自分以外にきょうだいが何人いますか？

☐ きょうだいはいない ☐ 一人 ☐ 二人 ☐ 三人 ☐ 四人 ☐ 五人以上

問 4. きょうだいがいらっしゃる方にお聞きます。きょうだいとの関係をどう感じていますか？

☐ 満足 ☐ まあ満足 ☐ やや不満 ☐ 不満 ☐ どちらともない ☐ 答えたくない

問 5. あなたと親との関係をどう感じていますか？

☐ 満足 ☐ まあ満足 ☐ やや不満 ☐ 不満 ☐ どちらともない ☐ 答えたくない

問 6. 問 4 の理由をお答えください。 ()

問 7. 現在あなたはどのように暮らしていますか？

☐ 親と同居 ☐ 親と離れて一人暮らし ☐ その他 ☐ 答えたくない

問 8. 親とのコミュニケーションをどのように取っていますか？（複数回答可）

☐ 対面 ☐ 電話 ☐ メール ☐ LINE ☐ 手紙 ☐ その他 ☐ ほとんどとっていない ☐ 答えたくない

問 9. 家にいる時、1 日で家族とどの程度コミュニケーションをとっていますか？

☐ 1 時間以内 ☐ 2 時間以内 ☐ 3 時間以内 ☐ 4 時間以内以上 ☐ 答えたくない

問 10. あなたの親は共働きですか？

☐ はい ☐ いいえ ☐ 答えたくない

問 11. 家事は、主に誰が行っていますか？（複数回答可）

☐ 父 ☐ 母 ☐ 自分 ☐ きょうだい ☐ 祖父母 ☐ その他 () ☐ 答えたくない

問 12. あなたは結婚したいと思いますか？

☐ 思う ☐ 思わない ☐ わからない ☐ 答えたくない

<結婚したいと考えている人にお聞きます。>

問 13. 将来、あなたは家事をしたいですか？ ☐ はい ☐ いいえ

問 14. あなたは将来子供が欲しいと思いますか？

☐ 思う ☐ やや思う ☐ あまり思わない ☐ 思わない ☐ 答えたくない

問 15. 問 12 の理由をお答えください。 ()

<問 14 で『思う』『やや思う』を選んだ方にお伺いします。>

問 16. 子供が生まれた後も働きたいと思いますか？ ☐ はい ☐ いいえ

<問 14 で『思う』『やや思う』を選んだ方にお伺いします。>

問 17. 子供は何人欲しいですか？

☐ 一人 ☐ 二人 ☐ 三人 ☐ 四人 ☐ 五人 ☐ 六人以上

問 18. あなたにとって、親はどのような存在ですか？ ()

問 19. 将来、親と暮らしたいですか？

☐ はい ☐ いいえ ☐ 答えたくない

問 20. あなたにとって理想の家族を教えてください ()

アンケートは以上です。ありがとうございました。